

浦戸諸島で『松島白菜』を栽培

大正時代から塩竈市の浦戸諸島で行われていた白菜の採種は、農業者の高齢化により徐々に規模が縮小し、東日本大震災前の時点では野々島（ののしま）と朴島（ほうじま）の数軒だけになっていた。

そこで、野々島の圃場が大震災で津波被害を受けたことをきっかけに、仙台大学附属明成高等学校（仙台市）が地域ボランティアとともに地元住民や渡辺採種場（美里町）の協力を得ながら、「松島白菜」の採種文化の保存活動に取り組んできた。

東日本大震災から10年の節目に計画された「東北宇宙ミッション2021（ワンアース／復興庁助成事業）」では、震災の記憶や復興支援への感謝の気持ちとともに被災地ゆかりの松島白菜の種も宇宙に打ち上げられた。



農園がある寒風沢島



整備中の農園

市制施行80周年を迎えた塩竈市では記念事業の一環として、宇宙から帰還した松島白菜の種を活用した地域づくり事業を浦戸諸島で計画し、現在、寒風沢島（さぶさわじま）に農園の整備を進めている。

明成高等学校食文化創志科の高橋信壮学科長は「星めぐりの白菜の種は、新しいふるさとづくりの種です。これからも多くの市民の皆さんとともに島の畑と心の田畑を耕し続けていきたい」と語った。

【記事提供：塩竈市農業委員会】